

## 霧島山（新燃岳）の火山活動解説資料

福岡管区气象台  
火山監視・情報センター  
鹿児島地方气象台

本日（4日）、鹿児島県の協力を得て行った上空からの観測では、火口内に蓄積された溶岩は直径600m程度で昨日（3日）と大きな変化はありませんでした。

新燃岳火口から概ね4kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

新燃岳火口から概ね3kmの範囲では、噴火に伴う火砕流に警戒が必要です。

風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石（火山れき）に注意が必要です。これまでの噴火では、直径4cmから6cmの小さな噴石は新燃岳火口から7km付近にまで達しています。また、爆発的噴火に伴う大きな空振に注意が必要です。

降雨時には泥流や土石流に注意が必要です。

### ○活動概況

#### ・上空からの調査（図1）

本日（4日）午前、鹿児島県の協力を得て行った上空からの調査では、火口内に蓄積された溶岩は直径600m程度で昨日（3日）と比較して大きな変化はありませんでした。表面は概ね平坦で、主に溶岩中央付近と南東部の2ヶ所から噴煙を上げており、中央付近の噴煙高度は火口縁上1,000m程度でした。

#### ・噴煙など表面現象の状況（図2）

新燃岳では噴火が継続しています。本日15時までの噴煙の最高高度は3,000mでした。

噴火が継続するなかで本日09時42分頃には、灰白色の噴煙が火口縁上3,000mまで上がり、東に流れました。また、この時火口周辺に大きな噴石が飛散したのを確認しました。

本日15時まで爆発的噴火はありませんでした。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。



図1 霧島山（新燃岳） 火口内の状況

- ・火口内に蓄積された溶岩は直径 600m程度で昨日（3日）と大きな変化はありませんでした。



図2 霧島山（新燃岳） 噴火の状況（遠望カメラ：新燃岳の南西約7km）

噴火が継続するなかで、本日 09 時 42 分頃には、灰白色の噴煙が火口縁上 3,000m まで上がり、東に流れました。また、この時火口周辺に大きな噴石が飛散したのを確認しました。